

## 第3章 計画で目指すもの

### 1. 望ましい環境像

望ましい環境像とは、市民・事業者・市民活動団体・行政に共通する長期的な目標として、概ね10年後の将来の本市のあるべき環境の姿を示すものです。

本市が最終到達点として掲げている「ゼロカーボンシティ」は、地球環境問題の解決のみならず、経済、地域のあり方の根幹に関わるものであり、その実現を目指して、積極的に取り組んでいく必要があることから、次のような将来像を掲げます。

望ましい環境像

自然と共生し  
ゼロカーボンを進めるまち  
かごしま



#### 「自然と共生し」

人は自然からの恵みを受けながら生きています。農林水産物や太陽光などの再生可能エネルギーを私たちの生活に生かすとともに、自然からの恩恵に感謝し、環境に配慮した生活が市民に定着した状態を「自然と共生」と表現しました。

#### 「ゼロカーボンを進めるまち」

2050(令和32)年の「ゼロカーボンシティかごしま」実現を目指し、行動・技術・仕組みが脱炭素型へと本格的に変容していくイメージを表現しました。

望ましい環境像を実現し、持続可能な都市として発展していくために必要な3つの要素として、市民の暮らしの視点として「ひと」、まちの空間の視点として「まち」、暮らしや空間を支える仕組みの視点として「しくみ」に着目し、それぞれを切り口として10年後と2050年の将来の望ましい姿を描きました。

## 10年後(2031(令和13)年度)の望ましい姿

### 脱炭素分野



ひと

- ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)<sup>5</sup>やネット・ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)<sup>6</sup>の普及など、住宅・建築物の省エネ対策が普及している。
- 環境に配慮したライフスタイル・ビジネススタイルの選択など地球温暖化対策に資するあらゆる賢い選択が行われている。
- ICT を活用したテレワークやフレックスタイム制の導入によって、通勤移動の削減や渋滞の緩和が進み、運輸部門のCO<sub>2</sub>排出が抑制されている。
- オフィスのフリーアドレス化やスペースの縮小により、オフィスのCO<sub>2</sub>排出が抑制されている。



まち

- 都心部の省エネ化や、電力の融通システムの構築等、低炭素なまちづくりが進められている。
- 従来の化石燃料からクリーンなエネルギーへの転換と再生可能エネルギーの導入が進み、脱炭素に向けて、みんなが活発に取り組んでいる。
- ハード・ソフト両面での、気候変動に適応した暮らしが実現している。
- 安全・快適な交通環境の整備や環境に配慮した交通行動の定着など、人と環境にやさしい交通環境が充実している。



しくみ

- 気候変動の影響に対応するため、市民及び国・県など関係機関との緊密な連携と協力による総合的な防災体制が充実している。
- 自主的な環境配慮行動に向けた気候変動対策の普及啓発が図られている。

<sup>5</sup> ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス (ZEH):外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロにすることを旨とした住宅。

<sup>6</sup> ネット・ゼロ・エネルギー・ビル (ZEB):高効率設備や再生可能エネルギーの導入により、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロにすることを旨とした建築物。

## 資源循環分野



ひと

- 循環型社会の構築に向け、市民や事業者の意識がさらに醸成されている。
- 事業所では、原料調達から廃棄までの一連のサプライチェーン<sup>7</sup>における資源消費量の抑制が図られている。



まち

- バイオガスなど廃棄物を活用したエネルギーの有効利用が図られている。
- 超高齢社会等に配慮した家庭ごみの収集・運搬体制の構築が進められている。



しくみ

- ポイ捨てや不法投棄の防止を徹底するとともに、清掃活動を推進し、プラスチックごみの海洋流出が抑制されている。
- 食品廃棄物等の削減やバイオガスの活用など市域内の資源循環の取組が定着し始めている。



ひと

- 市民・事業者の生物多様性に関する認知度が向上している。
- 市民や事業者等との協働による緑化活動により、緑の保全や創出が進められ、花と緑で彩るまちづくりに取り組んでいる。



まち

- 市有地や遊休農地などを活用した、市民が自然や生きものとふれあえる場が多く見られる。
- 公園緑地の調和のとれた配置・拡充や全ての人にとって利用しやすい公園づくりが進められている。
- 農地情報を広く提供し、農地の貸し借りが積極的に行われている。
- 大気や水質などの環境基準を達成している。



しくみ

- 企業やボランティア団体と連携し、適正な森林の保護、育成が行われている。
- 健全な生態系の保全に資するよう、適正な森林管理が行われている。
- かごしま環境未来館を中心に環境学習などを推進し、自然体験、生物多様性分野の講座などが追加・拡充されている。
- 学校教育において、生物多様性について学ぶ機会が増えている。

<sup>7</sup> サプライチェーン：製品の原材料・部品の調達から、製造、在庫管理、配送、販売、消費までの全体の一連の流れのことです。日本語では「供給連鎖」とも呼ばれる。

## 2050(令和32)年の 望ましい姿

### 脱炭素分野



ひと

- 住宅・ビルのエネルギーマネジメントシステム(HEMS<sup>8</sup>・BEMS<sup>9</sup>)が普及し、効率的なエネルギー需給が行われている。
- 建設時から居住、廃棄までのトータルで CO<sub>2</sub> の収支をマイナスにする LCCM(ライフサイクルカーボンマイナス)住宅が一般的になっている。
- リモート技術やボディスシェアリング<sup>10</sup>技術により、テレワークや遠隔での体験が日常的に可能になり、移動等に伴う CO<sub>2</sub> 排出が抑制されている。
- ナッジ<sup>11</sup>などの行動科学の知見や AI・IoT などの先端技術との融合を通じて、一人ひとりが楽しみながら自発的に実践できるような、脱炭素に向かうライフスタイルが定着している。
- 植物由来の食材や培養技術を用いた代替食品や、食と IT の融合(フードテック<sup>12</sup>)により、食料生産による環境負荷、食の安全、人材不足等の問題が解決されている。
- ホログラフィー<sup>13</sup>を活用した遠隔診療やバーチャルフィッティング<sup>14</sup>など、生活の多様な面で移動や空間整備等にかかるエネルギーコストが削減されている。



まち

- コンパクトシティが形成され、熱需要が適切に集約されるとともに、工場排熱や冷暖房排熱等の未利用熱の利用が広がっている。
- 災害時にも活用可能なデジタル技術、蓄電池、電気自動車、燃料電池、燃料電池自動車等を活用した地域のエネルギー供給網が構築されている。
- 市内を走る乗用車は全てゼロエミッションビークル(ZEV<sup>15</sup>)化し、ICT を活用した交通サービスや自動運転など、新たな交通システムを通じて人々の移動の最適化が図られている。
- 水素を燃料とする自動車・バス・トラックなどのモビリティが普及している。

8 ホームエネルギーマネジメントシステム(HEMS):家庭でのエネルギー使用状況を専用のモニターやパソコン、スマートフォン等に表示することにより、家庭における快適性や省エネルギーを支援するシステムで、空調や照明、家電製品等の最適な運用を促すもの。  
 9 ビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS):業務用ビル等、建物内のエネルギー使用状況や設備機器の運転状況を把握し、需要予測に基づく負荷を勘案して最適な運転制御を自動で行うもの。  
 10 ボディスシェアリング:キャラクターの身体、ロボットの身体や、人の身体とユーザの様々な感覚を相互共有すること。  
 11 ナッジ:人々が強制によってではなく、自分から望ましい行動を選択するよう促す仕掛けや手法のこと。  
 12 フードテック:フード(Food)とテクノロジー(Technology)を掛け合わせた言葉。最先端のテクノロジーを活用し、新しい食品や調理方法、食に関する環境を変えること。  
 13 ホログラフィー:3次元像を記録する技術のことで、特殊な装置は必要無く、私たちがごく普通に物体を見るように空間を再現できる技術。ホログラフィーによって記録されたものをホログラムと呼ぶ。  
 14 バーチャルフィッティング:手軽な操作で利用者のアバターを生成し、好みのファッションアイテムで3Dバーチャル試着を行うこと。  
 15 ゼロエミッションビークル(ZEV):走行時にCO<sub>2</sub>等の排出ガスを出さない電気自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)等のことを指す。

## 脱炭素分野（つづき）



まち

- 余剰となる再生可能エネルギーから水素が製造され、運輸分野で有効活用している。
- あらゆる世代の様々なニーズに応じた、エネルギー効率の良い超小型モビリティが普及している。
- 蓄電池を搭載し、ゼロカーボン電力で走行する路面電車が市内を走行している。



しくみ

- 太陽光発電のほか風力・水力発電などを加えた再生可能エネルギーに由来するゼロカーボン電力の供給網や発電電力のサプライチェーンが整備されている。
- 石炭火力に替わり、アンモニアや水素燃料、バイオマス燃料などが使用され、CO<sub>2</sub>排出抑制や炭素循環が図られている。
- 再生可能エネルギーや水素を地域内で最大限活用する仕組みが構築されている。
- 市域外からの調達も含め、市域の電力消費量は全てゼロカーボン電力によって供給されている。
- 再生可能エネルギー由来の余剰電力を、電気自動車(EV)のバッテリーに蓄電しておき、翌日の移動で利用するような取組など、エネルギーを融通する仕組みが確立されている。
- 「グリーンファイナンス<sup>16</sup>」を推進することにより、脱炭素化の取組資金が循環する仕組みが構築されている。
- エネルギーの地産地消に加え、森林吸収量などの環境価値等を販売することで、地域内の経済循環が拡大・活性化している。
- CO<sub>2</sub>フリー水素の安定的な入手が可能になり、水素サプライチェーンが確立されている。
- 大気中の温室効果ガスを回収、資源転換する技術が開発されている。
- ソーラーシェアリング<sup>17</sup>など、営農と再生可能エネルギー導入の双方が促進される仕組みが構築されている。

16 グリーンファイナンス：地球温暖化対策や再生可能エネルギーなどへの投資など、環境に良い効果を与える投資への資金提供のこと。

17 ソーラーシェアリング：農地に支柱を立てて上部空間に太陽光発電設備を設置し、太陽光を農業生産と発電とで共有する取組のこと。農作物の販売収入に加え、売電による収入を得られる新しい農業の形態。

資源循環分野



ひと

- シェアリングの利用や必要最小限なモノだけで暮らすなど、モノの所有にこだわらないライフスタイルが定着している。
- モノの消費からコトの消費への転換や、消費における価格重視から品質重視への転換など、社会や環境に配慮した商品・サービスを積極的に選択することで、消費者それぞれが社会的課題や環境問題の解決を考慮した「倫理的消費(エシカル消費)」が拡大している。
- 食品ロスの削減が徹底的に取り組まれている。



まち

- 清掃工場は、地域のエネルギーセンターとしての役割を果たしている。
- 超高齢社会等にも対応した廃棄物処理システムの構築が進んでいる。
- 関係機関や民間事業者と連携した監視体制の構築等により、廃棄物の不法投棄や不適正処理が見られなくなっている。
- 地域産材を活用し、高層建築物等の木造化が進み、林業の活性化やCO<sub>2</sub>吸収源の増加につながっている。
- 建築・土木事業で発生した廃材等は適切に解体・撤去・再資源化が行われている。



しくみ

- 紙、バイオ・生分解性プラスチック等のプラスチック代替素材の流通や一般廃棄物の収集運搬車の電動化等によって資源循環における脱炭素化が図られている。
- 廃プラスチック類の適正処理・再生利用や再生材の需要が拡大している。
- 発生した食品廃棄物の再生利用が徹底的に実施され、再生された肥飼料を利用して生産された農林水産品が地域内で消費される、地産地消の循環が形成されている。
- エネルギーや農林、製造、土木・建築業等の分野でカーボンリサイクル技術が活用されている。
- 生産・流通プロセスにおいてビッグデータやAIを活用した需給バランス予測がされ、資源の効率的・循環的な利用が図られている。
- 海洋生分解性プラスチック<sup>18</sup>の開発により、海洋生態系の保全が図られている。

18 海洋生分解性プラスチック:原料の石油由来、生物由来を問わず、海洋環境に存在する微生物、熱、光等の働きによって二酸化炭素、水にまで分解されるプラスチックのこと。

## 自然共生分野



ひと

- 生物多様性に配慮したライフスタイルや事業活動が定着している。
- AI や ICT 技術を活用したスマート農林水産業が普及し、気候の変化や人材不足に対応した効率的な生産体制が確立している。
- 優良農地の保全や遊休農地の解消が図られ、農業担い手の確保・育成、市内産農畜産物が流通しているなど、農業が活性化している。
- 市民や事業者等との協働による緑化活動が自発的に行われており、まちなかでも市民が憩い、潤い豊かな自然環境を感じることができている。



まち

- 森林などの生態系が保全・再生され、健全な生態系によるCO<sub>2</sub>の吸収により脱炭素に寄与している。
- 生きものが移動・分散する経路である生態系ネットワークが形成されている。
- 大気や水質が良好な状態に保たれ、生きものが暮らしやすい環境が整っている。



しくみ

- 林業の成長産業化と森林資源の適切な管理に向けた新たな森林管理システムが構築されている。
- 健全な生態系が保たれるよう、適正なモニタリングや鳥獣管理が行われている。
- 子どもたちがのびのびと遊べる森、里、水辺や海辺づくり、都市の中の身近な自然とふれあえる空間づくり、農山漁村への滞在型体験活動など自然体験のための社会的なシステムが構築されている。

本市は、2050(令和32)年の「ゼロカーボンシティかごしま」の実現を目指しています。次のページでは、「ゼロカーボンシティかごしま」が実現したまちの様子を描いたイメージをイラストで紹介します。

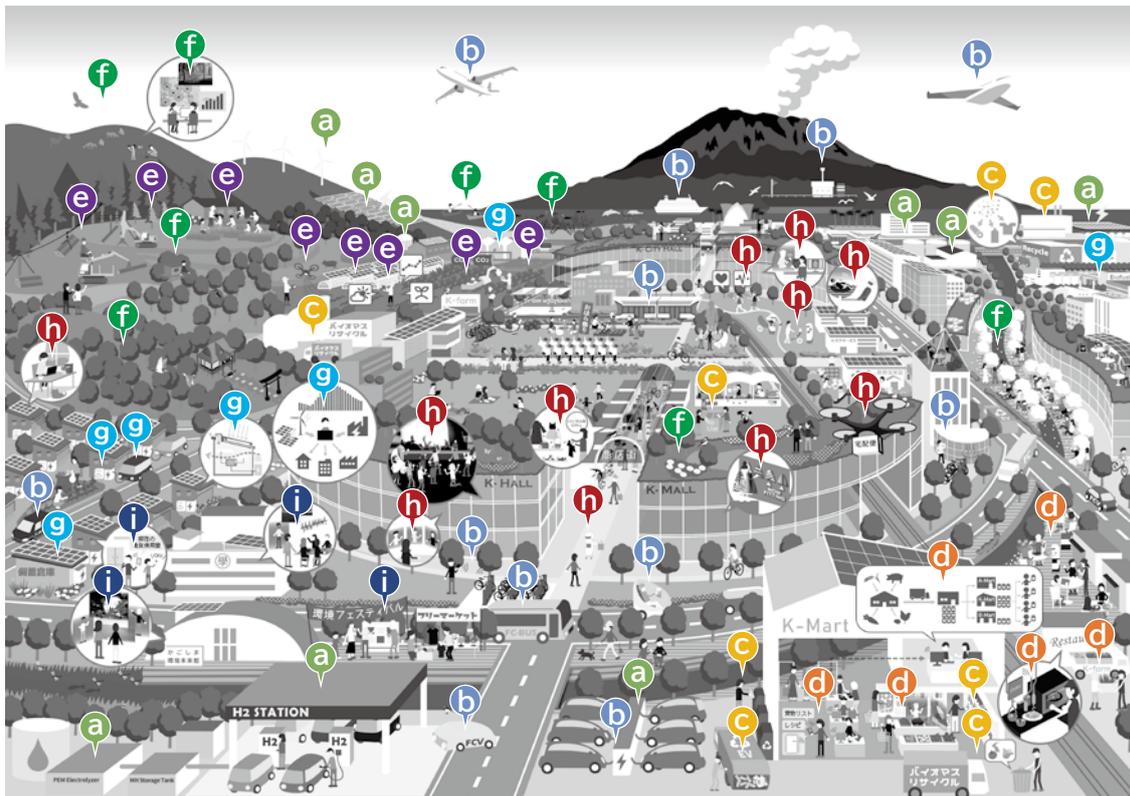




## 各グループの紹介

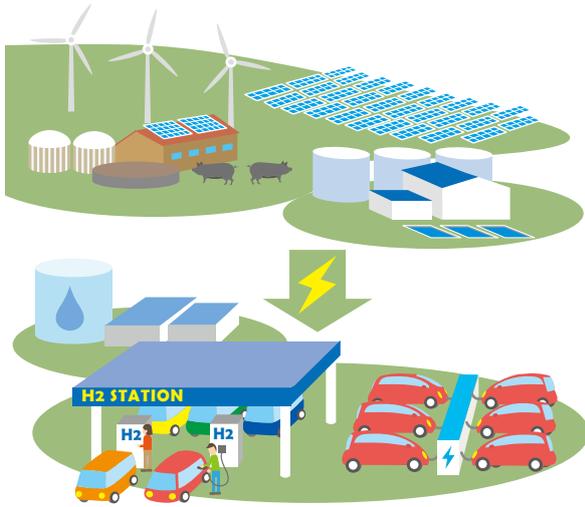
「ゼロカーボンシティかごしま」は、様々な分野で総合的な取組を展開することで実現します。

ここでは、主な取組を9つのグループに分け、次頁以降に各グループの詳細について紹介します。下図では、全体像における各要素がどのグループに属しているか確認できます。また、それぞれの取組が分野別の「ひと」「まち」「しくみ」のどの要素を満たしているかも示しています。



脱炭素分野			資源循環分野			自然共生分野		
ひと	まち	しくみ	ひと	まち	しくみ	ひと	まち	しくみ

<b>a</b>	再生可能エネルギーの主力電源化	●	●		■			
<b>b</b>	都市機能の集約と電気自動車等の充実によるコンパクトなまちの形成		●	●				
<b>c</b>	高度なリサイクルや廃棄物処理による持続可能な資源循環					■	■	
<b>d</b>	食とITの融合による食の多様化と地産地消の推進	●			■	■	★	
<b>e</b>	先端技術を活用した環境保全型の農林水産業			●			★	
<b>f</b>	緑地の保全・創出による水と緑のネットワーク						★	★
<b>g</b>	エネルギーの地産地消による災害に強い快適なまちとくらし	●	●					
<b>h</b>	快適・安心に暮らせる環境共生型ライフスタイルの実践	●						★
<b>i</b>	情報や技術を活用した能動的な環境学習	●			■		★	★



### a 再生可能エネルギーの主力電源化

太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーが経済的に自立し、大量導入されており、「主力電源」として、市域の電力消費量のほぼ全てを賄っています。

さらに、太陽光などの再生可能エネルギーにより発電した電力を使い製造される水素が地域社会の中で活用されています。



### b 都市機能の集約と電気自動車等の充実によるコンパクトなまちの形成

店舗や学校、各種サービスの徒歩圏内への集約と公共交通機関の充実によるコンパクトシティが形成され、複数の建物でエネルギーを融通し合うことが行われています。

さらに、市内を走る乗用車は全て走行時に排出ガスを出さない電気自動車等になっており、ICTを活用した交通サービスや自動運転など、新たな交通システムの活用により、人々の移動の最適化が図られています。



### c 高度なりサイクルや廃棄物処理による持続可能な資源循環

プラスチック製品の原料への再生や、化学原料の再生といった、資源循環のさらなる高度化に向けた取組が活発化しており、高度なりサイクル技術を有しています。

また、廃棄物エネルギーの利活用が高度化しており、循環型社会の構築と合わせて、資源循環による脱炭素化が図られています。





## d 食とITの融合による食の多様化と地産地消の推進

本来食べられるにもかかわらず捨てられてしまう食品ロスの削減に徹底的に取り組まれており、ビッグデータやAIを活用した需給バランス予測がされています。

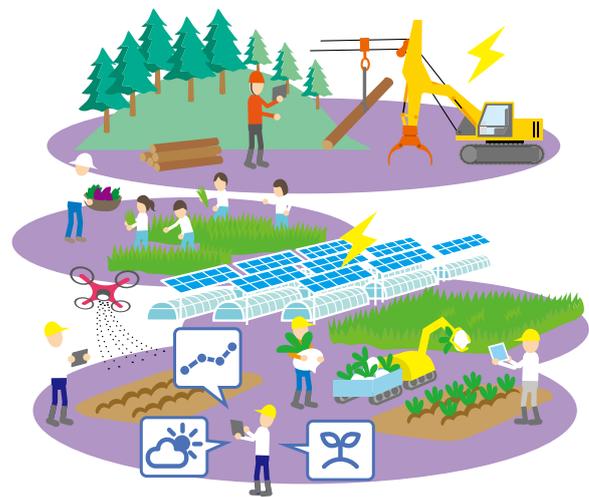
消費者は、農林水産品の地産地消を選好するようになり、輸送に伴う環境負荷低減によって脱炭素化へも貢献しています。



## e 先端技術を活用した環境保全型の農林水産業

農山漁村においては、豊富に存在する多様な資源を最大限活用し、バイオマスや営農型太陽光発電といった再生可能エネルギーが拡大しています。

また、AIやICT技術を活用したスマート農林水産業が普及し、気候の変化や人材不足に対応した効率的な生産体制が確立しています。



## f 緑地の保全・創出による水と緑のネットワーク

まちなかでは、市民が憩い、潤い豊かな自然環境を感じることができる環境が整っており、農山漁村では、滞在型体験活動など自然体験のための社会的なシステムが構築されています。





## 9 エネルギーの地産地消による 災害に強い快適なまちづくり

災害時にも地域の再生可能エネルギーなどの自立的な電源の活用ができるよう、地域のエネルギー供給網が構築され、さらに、それらの自立的な電源を活用するバーチャルパワープラント(VPP)<sup>19</sup>が構築されており、脱炭素化と同時に防災力強化に資するまちづくりが進んでいます。



## h 快適・安心に暮らせる 環境共生型ライフスタイルの実践

リモート技術やボディシェアリング技術、ホログラム技術により、テレワークや遠隔観光が日常的に可能になり、移動等に伴う CO<sub>2</sub>排出が抑制されています。

このような AI・IoT などの先端技術との融合を通じて、一人ひとりが楽しみながら自発的に実践できるような、脱炭素に向かうライフスタイルが定着しています。



## i 情報や技術を活用した 能動的な環境学習

日常生活の中での具体的な行動に結びつきやすい情報が分かりやすい形で発信されているとともに、ICT を活用した環境学習が提供されています。



19 バーチャルパワープラント(VPP):需要家側エネルギーリソース(空調、照明、生産設備、蓄電池等)、電力系統に直接接続されている発電設備、蓄電設備の所有者もしくは第三者が、そのエネルギーリソースを制御することで、発電所と同等の機能を提供すること。

## 2. 基本方針

望ましい環境像を実現するために、環境保全に係る「地球環境」、「資源循環」、「自然環境」、「生活環境」の4つの分野、さらに、それぞれの分野における施策を展開していくために必要となる共通的・基盤的な分野を加えた、5つの基本方針に基づき、市民・事業者・市民活動団体・行政が一体となって、総合的・体系的に取り組むを推進していきます。



図 3-1 望ましい環境像と5つの基本方針

## 基本方針1 ゼロカーボンシティかごしまの推進

地球温暖化問題は、人類の生存基盤に関わる最も重要な環境問題の一つとなっており、私たちは資源やエネルギーを効率よく利用する努力を行いながら、環境に配慮した社会経済活動や生活様式に転換することが求められています。また、持続可能な社会の実現には、再生可能エネルギーの利用が欠かせません。国際社会の一員として、地球温暖化対策(省エネルギーや再生可能エネルギーの導入)に積極的に取り組み、2050(令和32)年までに本市のCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティかごしま」の実現に向けた取組を加速させます。また、地球温暖化が要因と考えられる台風や豪雨等の気象災害等による被害の回避や軽減を図るため、治水対策や土砂災害対策などの適応策を積極的に進めます。

### 基本目標

- 1-1 CO<sub>2</sub>排出量の削減
- 1-2 再生可能エネルギーの地産地消の推進
- 1-3 気候変動適応策の推進

## 基本方針2 循環型社会の構築

これまでの社会経済活動により、私たちはさまざまな豊かさを手に入れることができた一方で、ワンウェイプラスチック<sup>20</sup>製品など大量の廃棄物を発生させており、廃棄物の排出抑制をはじめとする3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進が求められています。市民・事業者・市民活動団体・行政がそれぞれの役割を担うとともに、協働・連携し、循環型社会の構築に向けて、減量化・資源化やエネルギー源としての廃棄物の有効利用などに取り組みます。

### 基本目標

- 2-1 3Rの推進
- 2-2 廃棄物の適正処理の推進
- 2-3 エネルギー源としての廃棄物の有効利用

## 基本方針3 人と自然が共生する都市環境の構築

本市は、桜島や錦江湾をはじめ、八重山や三重岳などの森林、農村地域の里山や田畑など、豊かな自然に囲まれ、城山、多賀山、慈眼寺地区など身近な自然環境にも恵まれています。この恵み豊かな自然環境を守り、育み、さらに、自然とのふれあいによりその恩恵を受けることは私たちの願いです。また、この豊かな自然環境は、次の世代に引き継いでいかなければならない大切な資源です。人は自然の中に生かされているという認識を持ち、生物多様性の保全・活用や水と緑豊かな美しいまちづくりに取り組み、人と自然が共生し、うるおいと安らぎを感じられる環境を整え、次の世代に引き継いでいきます。

### 基本目標

- 3-1 生物多様性の保全と活用
- 3-2 緑の保全と花や緑の充実
- 3-3 公園緑地の充実

20 ワンウェイプラスチック:通常、一度使用した後にその役目を終える、使い捨てプラスチックのこと。

## 基本方針 4 生活環境の向上

都市化の進展に伴う人口の集中や産業の集積は環境に大きな負荷を与えており、経済活動による大気汚染や騒音、生活排水による水質汚濁等は、市民の健康や生活に影響を及ぼします。これまでの取組によって本市の環境は良好な状態を維持していますが、これからも良好な生活環境を保全していくことは重要な責務です。

また、本市は自然景観に恵まれており、きれいで清潔なまちなみと相まって、快適な環境を有しています。こうした潤いと安らぎを感じることでできる都市環境は、私たちがより快適な生活を送る上で重要な要素です。

さわやかな大気と清流に恵まれた、市民が健康で安全に生活することができる環境を保全するとともに、鹿児島らしい景観づくりを進め、豊かさを実感できる生活環境の向上を推進します。

- 基本目標
- 4-1 良好な環境の保全
  - 4-2 清潔で美しいまちづくりの推進

## 基本方針 5 エコスタイルへの転換

これまでに示した基本方針を着実に推進していくためには、人と環境との関わりなどについての基本的な知識が修得され、その理解が深められるとともに、市民・事業者・市民活動団体・行政が相互に連携しながら行動することが求められます。

私たち一人ひとりが自主的かつ積極的に環境に配慮した行動に取り組めるように、環境学習や環境教育を推進するとともに、みんなで考え協働するまちをつくります。

- 基本目標
- 5-1 環境学習・環境教育の推進
  - 5-2 多様な環境情報の発信
  - 5-3 主体間連携の推進

## 市の役割

- ✓ 市は、本市の自然や地域特性を生かしながら、良好な環境を保全・創出し、次の世代に引き継ぐため、本計画の施策を体系的・総合的に推進するとともに、各主体が本市環境の魅力に気づき、誇りに感じ、環境問題を「自分ごと」と捉えることで、自主的な環境配慮行動を促進します。
- ✓ 社会経済活動において市の果たす役割が大きいことを踏まえ、自らが率先して、事務事業に伴う環境への負荷の低減に努めます。さらに、広域的な取組が必要とされる課題については、国や県、近隣自治体と協力・連携して対応します。
- ✓ 気候変動により起こり得る災害(自然災害・感染症等)に備えて、持続可能で自立分散型の強靱な社会づくりを総合的に展開します。

- ✓ 市民は、かごしま環境未来館などで開催される講座やイベントへの参加や、地域の環境保全活動などを通じて、環境問題について考え、理解し、環境にやさしいライフスタイル(省エネ行動、3Rの実践、自然とのふれあい等)の定着を図ります。
- ✓ 事業者・市民活動団体・行政と協働するとともに、脱炭素型の製品やサービスを選択するなど、積極的に環境に配慮した行動を実践します。

## 市民の役割

## 事業者の役割

- ✓ 事業者は、環境にやさしいビジネススタイルの定着を図るとともに、環境負荷の少ない製品・サービスの普及を推進します。
- ✓ 市が実施する施策への協力や、地域の環境保全活動等に参加することにより、地域の良好な環境づくりに貢献します。
- ✓ 持続的に成長・発展していくため、企業経営に環境配慮の視点を取り入れ、脱炭素社会への移行に貢献します。
- ✓ ICTの活用によるテレワークやフレックスタイム制の導入等を推進することにより、業務効率を向上させるとともに、自然災害や感染症等へのリスクにも対応しながら、持続可能な地域づくりに貢献します。

- ✓ 市民活動団体は、地域に密着したまち美化、緑化、リサイクル、環境学習等のきめ細やかな活動を通じて、地域環境の向上に努めます。
- ✓ 市民が気軽に市民活動団体が行う活動へ参画できるようなシステムづくりや、活動内容など情報の提供、活動機会をできるだけ増やしていくように努め、市民・事業者・行政と協働して環境保全に取り組みます。

## 市民活動団体の役割